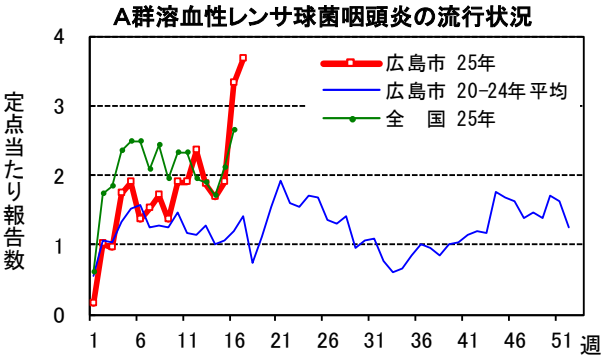


広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

- 1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点当たり3.68人の報告があり、前週に続いて増加しました。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。
- 2 百日咳
26件の報告があり、今年の累計は131件となりました。(次ページ参照)
- 3 RSウイルス感染症
定点当たり0.82人の報告があり、再び増加しました。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒や手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。
- 4 伝染性紅斑
定点当たり0.77人の報告があり、全国でも増加傾向です。主に小児にみられる感染症で、微熱やかぜ症状の後、両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。自然軽快することがほとんどですが、妊娠中に感染すると胎児水腫や流産のリスクとなる可能性があるため、注意が必要です。かぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの着用などの基本的な感染予防対策を心がけましょう。



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	2307	67.85			小児科	突発性発しん	4	0.18	0.33	
	インフルエンザ	34	1.00	1.05			ヘルパンギーナ	1	0.05	0.05	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	25	0.74				流行性耳下腺炎	1	0.05	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	18	0.82	0.65		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.10	
	咽頭結膜熱	13	0.59	0.36			流行性角結膜炎	11	1.38	0.45	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	81	3.68	1.42		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	243	11.05	5.94			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	1	0.05	0.12			マイコプラズマ肺炎	3	0.50	-	
	手足口病	2	0.09	0.42			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	17	0.77	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.33	0.03	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI) 定点数(内科・小児科)	34
小児科 定点数	22
眼科 定点数	8
基幹 定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	38	80歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	20歳代・O血清群不明
4	A型肝炎	1	2	70歳代・市外
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	16	80歳代
5	梅毒	3	42	30歳代、50歳代、70歳代
5	百日咳	26	131	10歳未満・9人、10歳代・10人、20歳代・2人、40歳代・2人、50歳代・3人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	(COVID-19) 新型コロナウイルス 感染症	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第13週	-	9	48	19	10	43	266	3	1	11	1	-	-	-	7	-	-	5	-	7	
		第14週	-	12	47	16	3	37	242	2	-	6	5	-	-	-	8	-	-	3	-	8	
		第15週	1,773	11	46	14	5	42	294	3	1	13	2	-	1	-	8	-	-	7	-	11	
		第16週	2,045	54	36	10	6	73	267	2	2	18	7	1	-	-	10	-	-	5	-	7	
		第17週	2,307	34	25	18	13	81	243	1	2	17	4	1	1	-	11	-	-	3	-	2	
定点 当たり	広島市	第13週	-	0.25	1.33	0.83	0.43	1.87	11.57	0.13	0.04	0.48	0.04	-	-	-	0.88	-	-	0.83	-	1.17	
		第14週	-	0.35	1.38	0.73	0.14	1.68	11.00	0.09	-	0.27	0.23	-	-	-	1.00	-	-	0.50	-	1.33	
		第15週	53.73	0.32	1.35	0.64	0.23	1.91	13.36	0.14	0.05	0.59	0.09	-	0.05	-	1.00	-	-	1.17	-	1.83	
		第16週	60.15	1.59	1.06	0.45	0.27	3.32	12.14	0.09	0.09	0.82	0.32	0.05	-	-	1.25	-	-	0.83	-	1.17	
		第17週	67.85	1.00	0.74	0.82	0.59	3.68	11.05	0.05	0.09	0.77	0.18	0.05	0.05	-	1.38	-	-	0.50	-	0.33	
	全国	第15週	49.15	1.19	2.10	0.93	0.25	2.12	8.27	0.33	0.05	1.13	0.28	0.02	0.05	0.06	0.81	0.02	0.02	0.24	-	0.24	
		第16週	56.58	1.20	1.77	0.85	0.32	2.64	8.54	0.37	0.07	1.25	0.30	0.02	0.06	0.06	0.95	0.01	0.02	0.30	0.01	0.24	

■ 新たに判明した病原体検出状況

感染症発生動向調査に基づく病原体定点医療機関からの搬入分(ARI分を除く)のみ掲載

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の消化器疾患	腹痛 吐血 十二指腸潰瘍	4	2025/02/28	糞便	サポウイルス

(検査: 広島市衛生研究所)

■ 病原体検出状況(ARIサーベイランス)

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

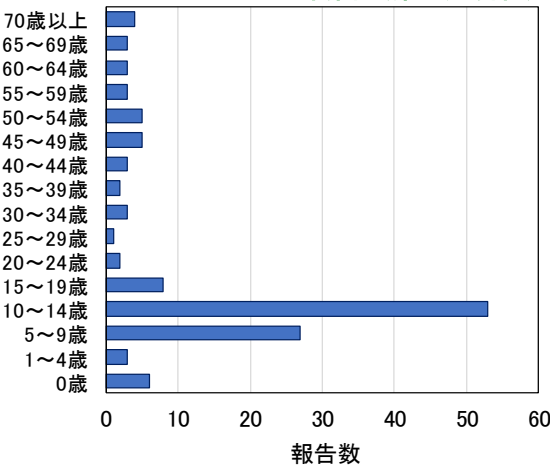
検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型	インフルエンザウイルス A(H3)型	インフルエンザウイルス (B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統))	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	エンテロウイルス	ライノウイルス	アデノウイルス
第15週	7	5				3			1						3	
第16週	14	10	2			2	2		1						4	

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む

(検査: 広島市衛生研究所)

【参考】百日咳について

百日咳の年齢階層別報告数(広島市)
2025年累計(第17週現在)



百日咳は、百日咳菌によって起こる急性の気道感染症で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。

7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のような音が出る発作性の咳となり、しばしば嘔吐を伴います。乳児期早期では特徴的な咳がなく、単に息を止めているような無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止と進展することがあります。肺炎や脳症などを合併することもあります。

成人の場合は、咳が長期にわたって持続しますが、典型的な症状を示すことが少なく百日咳とわかりにくいいため、周囲に感染を広げてしまうことがあり、注意が必要です。

生後6か月未満の乳児は重症化のリスクが高く、特に注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp